



創造する生徒 心豊かな生徒 鍛える生徒

# 藤花だより

令和5年度12月号  
令和5年11月30日  
さいたま市立大宮西中学校  
TEL048(624)4339  
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

## 「自分と向き合う・対話する」

～ 面接練習を通して ～

校長 森角 由希子

9月下旬から、約160人の3年生を対象に、一対一の校長面接を行っています。面接前に何度も覚えたことを廊下で繰り返している生徒の声が聞こえてきたり、友達同士で何度も面接の練習をした様子が伺えたりすると、意味ある経験として捉えてもらえていると感じています。

「中学校生活で、努力したことは何ですか？」という質問項目があります。以下は、思い思いの中学校生活を過ごしてきた様子が語られた内容です。

- 通学路でのごみ拾いを心掛けていました。みんなが気持ちよく登校できるように週1回は行っていました。
- 美術室の掃除を頑張りました。「美術は才能がすべてだ」と友人は言っていたのですが、私は「絵を描くことが好き」という気持ちを大切に、部活動を頑張ることもできました。
- 2年生後半から朝練習の自由参加が始まったとき、友達と毎回積極的に参加しました。3年間で結果を残すことはありませんでしたが、部活動を通して精神面で学べたことは多くありました。
- 「誰もやらないことをやる」をモットーにだれも立候補しない学級委員や実行委員などに進んで立候補し、たくさんの経験をさせていただきました。
- 放送委員会です。一見「ただ話すだけで済むもの」と思われてしまいがちですが、人に何かを伝えることの難しさを知ってからは、私はかなり放送委員会の責任を感じました。

また、「将来の夢や職業」に関する質問では、「人が笑顔になる仕事」「人が喜ぶ仕事」等のキーワードが目にとまりました。私は「それでは、人が笑顔になれない仕事、人が喜ばない仕事とは何ですか？」と尋ねると、生徒たちからは「喜ばれない仕事はないと思います。」「仕事は、人々の生活を豊かにするためにあると思います。」等の答えが返ってきました。

面接の質問事項は、質問に対しての「答え」を求めているだけではなく、「問い」に対して、「考える」ことはどのようなことであるのかについても、問われているのだと思います。

「問い」とは、自分の「内部」に投げかけられたもので、「私はどう生きたいのか？（どうしてその高校・職場へ進学・就職したいのか）」「私はどう働きたいのか？（その学校で何を学びたいのか）」「私にとって幸せとは何か？」と、こうした自己反省やリフレクションによって、自分自身のことをより深く知り、自覚的になっていくことだと思います。また、もう一つは他の人や社会など、自分の「外」に問いを投げかけることだと思います。例えば「人はわかりあえるのか？」「なぜルールは存在するのか」などについて、一度立ち止まり、自分の外にある「当たり前」に問いを投げかけ、単に私にとっての話だけでなく、「自由とは？」「愛とは？」「法とは？」と探究することにより、真理を追い求めていく営みだと思います。

「考える」というのは、自分自身に問いを投げかけ、それに答えようとするプロセスでポジティブな行いだと思います。そして、これらは、他者と共に問う（対話する）意味のあるものだと思います。面接の場面には、単に質問に答えるだけではなく、意味のある「対話がある」ということです。



年の瀬がせまってきました。来年も、子どもたちが良き社会人として成長することができるように、様々な取組を行ってまいります。冬休みの年末年始の機会に、ぜひ御家庭でもお子さんの「学び」や「成長」について「対話」の場面を作ってくださいませと幸いです。最後になりましたが、学校評価アンケートには御多用の中、御協力いただきありがとうございました。総括については年明けとなりますが、皆様からの御意見を真摯に受け止め、取り組んで参りたいと存じます。来年もどうぞよろしくお願いいたします。